

法政大学法学部同窓会20周年記念企画

北京の世界遺産 文化 交流の旅



法政大学法学部同窓会

法学部同窓会創立 20 周年記念企画

北京の世界遺産、文化、交流の旅

2018. 5. 24～2018. 5. 27

目 次

記念写真集	1
「北京の世界遺産、文化、交流の旅」報告 五明公男	5
「法政チャイナ校友会」創立15周年記念大会に参加して 金子征史	9
法学部同窓会20周年北京旅行を終えて 田中義教	17
北京の世界遺産、文化、交流の旅・雑感 齊藤友嘉	23
北京旅行に参加して 佐藤忠篤	30
北京旅行にて 小野昭	32
北京再訪 笠原榮作	34
北京旅行に参加して 奥嶋義明	37
北京旅行～道中記 高橋敏男	40
北京は熱かった 高田真一	54
北京訪問の旅を振り返って 円城寺孝子	57

北京の世界遺産 文化 交流の旅 記念写真集



5/24 万里の長城・八達嶺

5/24 「横断幕はダメ」と注意されもう一度撮影





5/25 盧溝橋



5/25 故宮博物院前で



5
—
25
中国人民抗日戦争記念館



5/25 風ら右京劇団劇場で



5/26 北京動物園・パンダ館



5/26 法政チャイナ創立 15 周年記念式典に出席

法政大学法学部同窓会 20 周年記念企画

「北京の世界遺産、文化、交流の旅」報告

訪中国団長 五明 公男

法学部同窓会国際交流第2弾として今回中国北京を中心に企画を設定し、2018年5月23日羽田空港を出発し、5月27日無事帰着した。

交流・観光をメインに日中平和観光株式会社にお任せし、同窓会としては田中義教氏にその交渉を全面的にお願いした。

北京観光は勿論満足できる内容であった。交流という点では第4日目「法政チャイナ設立15周年」記念式典・懇親会において多くの法政チャイナ（90名近い）の方々とお会いし、わが母校を懐かしみ、今後共法政卒業を誇り、互いに日本・中国において頑張っていきましょうと絆が構築されたことは大いなる今回の収穫であった。

次回国際交流3弾は韓国を予定しております。是非会員の皆様もご参加下さい。



5月24日八達嶺・万里の長城を背景に記念撮影

旅行日程等概要

1、旅行期間

2018 年(平成 30 年)5 月 23 日(水)～5 月 27 日(日)

2、旅行団名簿

- ① 顧問 金子 征史 (法学部同窓会会長)
- ② 団長 五明 公男 (法学部同窓会理事長)
- ③ 副団長 田中 義教 (法学部同窓会副理事長)
- ④ 秘書長 齊藤 友嘉 (法学部同窓会事務局長)
- ⑤ 団員 佐藤 忠篤 (法学部同窓会理事)
- ⑥ 団員 小野 昭 (法学部同窓会理事)
- ⑦ 団員 石橋 行雄 (法学部同窓会理事)
- ⑧ 団員 笠原 榮作 (法学部同窓会理事)
- ⑨ 団員 奥嶋 義明 (法学部同窓会会員)
- ⑩ 団員 高橋 敏雄 (理系同窓会役員)
- ⑪ 団員 榎本 勝治 (経済学部同窓会役員)
- ⑫ 団員 高田 眞一 (田中義教氏知人)
- ⑬ 団員 相原 久仁子 (田中義教氏知人)
- ⑭ 団員 円城寺 孝子 (田中義教氏知人)
- ⑮ 添乗員 佐藤 洋子 (日中平和観光株式会社)

3、旅行代金 計157,770円

旅行代金 148,000 円 羽田空港施設使用料 2,570 円

空港税 1,600 円 航空保険料・燃油料 5,600 円

4、旅行企画・実施 日中平和観光株式会社

東京都中央区東日本橋 2-7-1 国際東日本橋ビル 2階

TEL:03-5822-3509 FAX:03-5822-3512

5、宿泊所 唯実国際文化交流中心

6、日程

(1) 5月23日<水>第1日目

- ① 集合 15時20分 羽田空港国際線ターミナル3階
出発ロビーDカウンター前
- ② 羽田空港発(1時間遅れ) 18時20分
全日空にて北京空港へ
- ③ 北京空港着(1時間遅れ) 22時10分
到着後宿泊ホテルへ ホテル到着 23時

(2) 5月24日<木>第2日目

- ① 午前中 ㊦世界遺産「万里の長城(八達嶺)」に登る
- ② 午後 ㊦繁華街「王府井」「瑠璃廠」散策

(3) 5月25日<金>第3日目

- ① 午前中 ・日中戦争の発端となった「盧溝橋」散策
・中国人民抗日戦争記念館見学
- ② 午後 ・世界遺産、明清時代の歴代皇帝の王宮
「故宮博物院」見学
・京劇観賞(風雷京劇団)
- ③ 夜 ・夕食後、北京のシンボル「天安門広場」

(4) 5月26日<土>第4日目

- ① 午前中 ・北京動物園(パンダ館見学)
- ② 午後 ・法政大学チャイナ校友会15周年記念講演
講師 田中優子総長—北京大学
・北京大学構内見学
- ③ 夜 ・法政大学チャイナ校友会設立15周年記念式
典、懇親会(直隸会館)

(5) 5月27日<日>第5日目

① 北京空港発 8時25分

② 羽田空港着 12時50分 着後、解散



5/26 北京動物園・パンダ見学



5/25 風雷京劇団で衣装を試着して熱演する団長



5/25
故宮博物院啓学



5/26 法政大学チャイナ校友会創立15周年記念式典に出席



祝賀会で挨拶する田中優子総長

「法政チャイナ校友会」創立15周年記念大会に参加して

法学部同窓会会長 金子 征史

1、法学部同窓会の20周年記念訪中団の結成と

「法政チャイナ」

2018年5月26日（土）、中国北京市の北京大学博雅国際酒店地下1階「中華庁」において法政大学チャイナ校友会創立15周年記念式典が開催された。わが法学部同窓会では、北京研修会を兼ねて「法政チャイナ」に敬意を表して訪問団を結成し、にぎにぎしく参加してきた。

訪問団は、五明公男理事長を団長、田中義教副理事長を副団長、齊藤友嘉事務局長を秘書長にして、総勢14名で結成され、少し暑くはあったが天候にも恵まれ、無事当初の計画通り5月23日から27日までの旅程をこなし、全員無事帰国した。

当初、私は他の所用との関係で、訪中するかどうか迷っていたが、法政チャイナの現在の代表・楠本路子さんから再三にわたってご丁寧なお誘いを受け、スケジュールを調整して参加することとし、訪問団では顧問という肩書で同行することになった。

実は、楠本路子さんは本学法学部在学中には私の教え子で、卒業後は北京郊外の石家荘に家庭を構えて生活していて、その後、法政チャイナの設立に奔走していた。そしてついに2002年5月26日、北京市レストラン「肉季」で、彼

女が初代事務局長として法政チャイナの小さな発足式を開催したのである。私は、当時、大学の常務理事をしていたため、彼女の要請を受け、総長代理としてこの発足式に参加した因縁があった。今回の訪中を決意したのもそのことがあったからである。2002年の発足式には、今回の訪問団員のなかの田中義教氏、佐藤忠篤氏も参加され、楠本さん以外の当時北京在住の私の教え子、佐藤宝（現在アメリカ在住）、野洲（酢谷）美果子（現在スウェーデン在住）、曹京鉉（北京からの留学生）君らが参加していた。このなかで曹君は初代副会長であり、現在は法政チャイナ（北京）会長で、今回は記念品プレゼンターとして登壇した。なお、初代会長は白智立氏（法政大学大学院で博士号を取得した留学生、現在北京大学准教授）であり、今回は式典のなかで「中国近代法制と法政大学」というテーマで記念講演をされた。

2、盧溝橋と抗日戦争記念館

今回の法学部同窓会の訪中団は、上記の法政チャイナ15周年記念行事に参加する傍ら、万里の長城、故宮博物院などの世界遺産を見学したり、日中戦争の発端となった盧溝橋の戦跡、同所にある中国人民抗日戦争



盧溝橋の戦跡を訪ねることができた

記念館を訪れたり、北京を代表する繁華街・王府井や書画・骨董の名店の並ぶ瑠璃廠を散策し、京劇を鑑賞するなど短期間の旅行にも関わらず、盛りだくさんの内容の充実した研修旅行を経験した。また北京ダック等名物料理も堪能した。参加者のなかには、田中義教さんや佐藤忠篤さんのように何度も訪中している方もいるが、大半の方々は初めての中国旅行であった。しかし、充実した旅程と食事の故か、暑さのなかで想像以上に楽しまれたようである。

私は、法政チャイナの楠本代表のアレンジで著名なローファーム（大規模な法律事務所）を訪れ、東京大学法学部・大学院での留学経験のある北京の政法大学教授や涉外弁護士、研究者の方々と懇談するなど、2日間にわたってわが同窓会訪中団とは別メニューで動かざるを得なかった。したがって、同窓会訪中団との共同行動は、法政チャイナ15周年記念式典以外は、「盧溝橋」及び「抗日戦争記念館」訪問にとどまった。



抗日戦争記念館の内部資料を見る

盧溝橋の「抗日戦争記念館」は、私にとって3度目の訪問であった。初めて訪れたのは今から30年も前、まだ記念館開設当初で、ゼミの学生を連れて北京大学の担当職員の方のご案内で訪れたが、ほとんど誰も訪れる人もなくゆっくりと館内を見学したものである。しかし、10年ほど前の2度目の訪問の時は、中国政府が、若い中国人民が日中戦争の悲惨さを確認した上で、これから先の平和教育のために「抗日戦争記念館」を見学することを推奨したことにより、常時、全館中国の中学生たちで埋め尽くされる賑わいであった。今回も同様に多くの地元の方々と賑わっていた。しかし、これまであまり見かけなかった日本からの高校生の一団が見学していた。話を聞いてみると修学旅行で訪れているのだということであった。戦争の当事国である日本の若者がこの記念館を訪れることは記念館設置の目的に沿う使われ方として評価できる。わが国の若者のこうした体験が今後増えるなかで、市民レベルでの両国の共通の平和教育に繋がることを強く願っている。

3、法政チャイナ15周年行事

(1) 田中優子総長の記念講演

法政チャイナ15周年記念行事は、5月26日（土）午後1時30分から、北京大学政府管理学院の会議室において、田中優子法政大学総長の「江戸文化と武士の生活」と題する特別企画の講演で幕を開けた。講演の司会を務められた法政チャイナ東京会長 喜多清嗣氏の開会宣言の後、田中総

長はいつもと変わらぬメリハリのある穏やかな語り口で話し始めた。

会場は100名を超す超満員で、聴衆は、北京大学の教職員、学生、留学生、日本文化に興味を持つ北京市民、さらに、わが法学部同窓会の訪問団員たちなどである。

講演の内容は、1、武士の仕事と学び、2、武士の生計、3、江戸文化創造に参加した武士たち、といった柱で構成されていた。具体的には、「武士は自らの資金で武装する戦闘者であり、かつ国や藩の統治のための膨大な事務を処理する官僚であった。」「しかし、武士人口は6%程度の少数者で、そのほとんどが知的エリートであって、「文武二道」の修行が義務付けられていたが、収入の道は主君から授与される禄米（それを換金した給与）で、生活は貧しく、質素な人たちであった。」ことを指摘したうえで、武士のなかには、「* 芝居や浄瑠璃に熱中する者、* 食えることや飲むことを楽しむ者、* 働かない、修行しない者」も少なからずいて、このような武士の存在こそが江戸文化を作ったと述べられた。そして、江戸文化の創造に参加した武士たちを具体的に紹介する内容であった。

会場からは幾つかの質問も出て、田中総長は丁寧に答えるなど、和やかな雰囲気の中、講演会は終了した。

北京大学での法政チャイナ15周年記念 田中総長講演会場の入口



(2) 15周年記念式典

田中総長の講演会終了後、会場を、北京大学博雅国際酒店（中国の大学はほとんどがホテルを経営しているが、この酒店は北京大学の経営するホテルである）の地下1階にある宴会場「中華庁」に移し、17時30分より、チャイナ校友会創立15周年記念式典が開催された。こちらでも司会は喜多清嗣氏が務められ、80名の参加者のなか、厳かにかつ和やかに進行していった。

参考までに、当日の式典のスケジュール表を掲げると以下の通りであった。

- 1、開会宣言 喜多清嗣
- 2、来賓ご挨拶 法政大学総長 田中優子様
- 3、来賓ご挨拶 法政大学校友会長 桑野秀光様
- 4、来賓のご紹介 司会・喜多清嗣
- 5、特別報告「中国近代法制と法政大学」
北京大学准教授 白智立様
- 6、乾杯ご発声 法学部同窓会長 金子征史様
- 7、法政チャイナ15年の歩み紹介
法政チャイナ初代代表 氷室利夫
- 8、祝宴／ご寄付者ご紹介 司会・喜多清嗣
- 9、ご祝辞 北京三田会会長 小澤秀樹様
- 10、ご祝辞 法政大学韓国校友会長 趙熙俊様
- 11、記念品贈呈 法政チャイナ（北京）会長 曹京鉉
- 12、中締めご挨拶 法政チャイナ代表 楠本路子
- 13、校歌斉唱 法政大学応援団OB 長裕章様
- 14、記念撮影

2002年5月26日、
北京市レストラン
「肉季」でわずか
10数名の参加者で
発足式を挙げた
「法政チャイナ」
が、15周年記念式



乾杯の発声をする金子法学部同窓会長

典を80名の多くの参加者でこれほどにぎやかに開催される
ことになるとは、当初私には想像できなかった。しかし現
実は、北京大学博雅国際酒店のような大ホテルで、田中優
子総長や桑野秀光校友会長のご臨席の下、厳かで華やかな
祝宴であった。法政大学と中国との関係の継続的な深まり、
世界のなかでの中国の大発展などを思うと、改めて15年の
歳月の重さを感じた。それにしても法政チャイナの方々の
この15年間のご努力にはただ敬服するばかりである。



法政チャイナ 15 周年記念式典会場で訪中国の記念撮影

4、最後に

5月27日早朝、北京空港から羽田空港へのフライトで、短期間であったが充実した法学部同窓会20周年記念「中国北京」の旅は終了した。この旅行団に参加された団員の皆様、とりわけ旅行団を取りまとめて楽しい有意義な旅を支えてくださった五明公男団長、田中義教副団長、齊藤友嘉秘書長の皆様には格別な感謝を申し上げたい。かつての台湾旅行団に次ぐ、今回の旅行団の成功は、法学部同窓会の国際化を推し進める一助となったことは疑いない。これからも、国際化が進行する法政大学の有力な卒業生団体であるわが法学部同窓会は、世界各地に活躍する校友との交流を目指していただければ、私は本会会長として望外の幸せである。

以上



盧溝橋 石畳(44 頁の写真)の先に見えた「宛平城」
18 頁に関連記述があります。

法学部同窓会20周年北京旅行を終えて

訪中国副団長 田中 義教

はじめに

昨年9月に訪中した際、法政チャイナの楠本さんと北京でお会いし、創立15周年に田中優子総長をお招きして記念式典を開催したい旨の強い気持ちが表明されました。楠本さんは法学部の同窓生で中国で活躍しておられる方、何とか協力できないか、と思っていました。その後、五明理事長ともお話しした折に北京訪問で盛り上がり、法学部同窓会20周年記念として訪中が企画されました。

金子会長はじめ役員の参加が確定しましたが、3月の予定が変わったこともあり、7年前の台湾旅行に比べて、15名の参加者確保は厳しく、私の親しい友人の皆さんのご協力もあって何とか実現しました。

各訪問地の感想

万里の長城では暑い日差しの下、八達嶺長城の男坂、女坂をそれぞれ年齢と体力を考えて挑みました。中国では「不到長城不好漢（長城に上らなければ男ではない）」の格言があり、北京訪問の定番となっています。土産物屋が数多くある中、私が帽子を50元（850円位）で買いましたが、同じものを他の方は少し離れ



長城への登り坂

たところで何と10円で買い、中国通の私が皆さんの笑いものになってしまいました。しかし少しでも多くお金を使うことも日中友好の立場から必要な時もあるのです（笑）。

故宮博物院もたくさんの欧米からの外国人、中国人に混じってこれまた炎天下日陰のないところを見学し、往時の皇帝たちの生活の一端を垣間見ました。太和殿、中和殿、時計展示館など一部しか見学できませんでしたが、ともかく何でもスケールの大きい中国ですから、やむを得ない選択でした。



盧溝橋は元代にマルコポーロが世界で一番美しい橋、と称えた趣のある橋ですが、下を流れる永定河はあまり水もありませんでした。ここで81年前の夜、一発の銃声から近くの宛平城、豊台周辺に展開していた日本軍、中国国民党軍が戦闘状態に陥り、全面的な日中戦争へと進んでいきました。なぜこんな遠くの、しかも他人の土地に日本軍がいたのか、あらためて考える現場ではありました。

中国人民抗日戦争記念館では日本の満州侵略(中国はそう考えている)以降の両国の歴史を、日本からの豊富な資料も含め、ビジュアル化された展示を行っており参加者も

いろいろな感想を持ったでしょう。日本人はあまり見かけなかったのですが、多くの来館者に交じって神戸から高校生の一団が見学に来ていました。日中平和友好条約締結40周年の年、過去を鑑とし、より良い両国の未来を考える機会になるよう願っています。(注：8月にまた同記念館を公式訪問した際、李宗遠館長から近年日本からの来館者が少ない、政党代表も同じ、と話していました)

中国文化に接する内容として京劇観賞も行いました。北京の地元の劇団である風雷京劇団の内部を見学後、古典楽器による生演奏付きの公演を15人で貸切、かぶりつきで鑑賞、最後に記念写真、と贅沢な時間を過ごしました。大きな劇場ではなかったのですが、アットホームな雰囲気ですれなりに評価して頂けたのではないのでしょうか。旧知の松岩団長、団員の皆さんの対応に感謝する次第です。他にも古い街並みの瑠璃廠、胡同散策など、古の中国の空気も体験しました。



風雷京劇団劇場で団員と記念撮影

その後私は田中総長と関係者との懇談の関係で参加できなかった北京動物園でいま話題のパンダを見学。上野と違って時間的にはゆっくり堪能できるはずでしたが、暑さであまり元気がなかったかもしれません。



法政チャイナ創立15周年記念式典参加

最後の行事は中国の名門、そして法政の協定校である北京大学での田中優子総長の講演、記念式典、懇親会でした。法政チャイナの皆さんの奮闘により、熱く盛り上がったイベントとなりました。

記念講演では江戸の文化と武士の生活、中国との関わりを聞かせて頂き、日本で聞くのとは一味違った充実感を覚えました。田中総長らしく着物姿での講演でしたが、中国の方々には、講演内容と共に新鮮な印象があったのではないのでしょうか。

広大なキャンパスの散策では有名な未名湖、博雅塔、等を見ながら、20年前に通ったことのある建物前を眺め、(東大)赤門の中国版、西門で折り返しました。案内してくれた法政はじめ日本の大学生、院生らボランティア参加の孫のような若者との会話も弾みました。

懇親会では、現地で活躍している六大学OBの皆さんや韓国からの卒業生とともに大いに飲みかつ最後は法政の校歌を高らかに唄い、皆さんと北京の旅の主要なイベントを終えました。

特に何事もなく帰国しましたが、金子会長、五明理事長、齊藤事務局長はじめ参加者、日中平和観光の佐藤さんをはじめ、皆さんのご協力に感謝申し上げます。



法政チャイナ15周年
記念式典・祝賀会で



北京の世界遺産、文化、交流の旅・雑感

事務局長 齊藤 友嘉

第1日（5／23）出発

法学部同窓会創立20周年記念の海外旅行として中国旅行が準備され、いよいよ出発の日を迎えた。私は、香港には一度行ったことはあるものの、中国本土への旅行は初めてで、是非行ってみたいと思っていたので、大きな期待を胸に羽田空港から飛び立った。

到着した北京空港は広大で、早くも大陸であることを実感した。ホテル到着は、夜遅くになった。ホテルの部屋は、五明理事長とご一緒させて頂いた。部屋は、想像以上にきれいで、満足した。



5/24 背景は万里の八達嶺長城

第2日（5／24）いざ観光

まず、万里の長城を見学。長大な遺跡のうち、八達嶺というところを訪れた。私は、やや日和って女坂といわれる

コースを選び、第4狼火台まで登った。かなりきつかった。

万里の長城を築いた当時の為政者は、安全保障のためとはいえ、よくも、このような建造物を築造したものだなあと驚かされた。莫大な費用、人力、時間を費やした筈である。

しかし、現代においても、安全保障のためには、核兵器の開発や保有、様々な兵器による武装のために、相変わらず莫大な費用を費やしており、人類は根本的には少しも進化していないのではないかとの感慨も覚えた。



八達嶺出入口で

この日の昼食は、メインはジャージャー麺だったが、副菜もテーブルにところ狭しとたくさん盛られて、とても食べきれない状態だった。中国では、日本とは違い、もったいないといって全部食べる必要はないとのことで、なるほどと納得した次第。

昼食後は、北京市内に戻り、中心街の歩行者天国を散策した。デパートなどは、日本ともあまり変わりがないように見受けたが、横丁に入るとサソリの串焼きが売られていたりして、ちょっとビックリ。これって本当に旨いんだろうかと思ったが、試してみる勇気はなかった。次に、書道、

骨董の店が並ぶ瑠理チャンを散策。中国の伝統工芸品などを見て回った。

夕食は、全聚徳和平門店ホールで北京ダックを頂いた。隣のテーブルでは、中国人の家族連れが食事をしていたが、その騒々しいのには圧倒された。中国人のパワーは侮るべからず。せっかくの北京ダックであったが、先に包む皮が運ばれてきて、なかなか身の方が運ばれてこないで、皮が干からびてしまったりして、有名店の割には、サービスの仕方がなっていない感じであった。東京・銀座の全聚徳の方がおいしいと思ったりした。



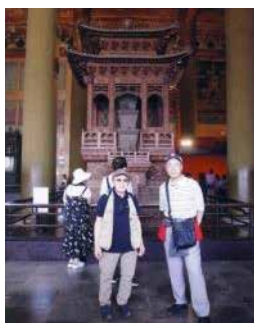
5/24 夕食は北京ダック

第3日（5/25）社会見学

午前8時にホテルを出発して、盧溝橋へ。かの日中戦争が始まったところ。橋が出来た当時の石畳を歩いて橋を往復し、いにしえの感触を味わった。

次に、中国人民抗日戦争記念館を見学。かなり豊富な資料や写真が展示されており、また、抗日戦争の段階を分けて解りやすく解説がなされていて、非常に参考になった。戦後の日中国交回復の時代の資料もあり、国交回復文書の周恩来、姫鵬飛、田中角栄、大平正芳の署名を見ることができた。田中角栄は、非常に達筆な筈なのに、その署名があまり良く書けていないとの印象を受けた。かの田中角栄

も、日中国交回復交渉の折には、相当緊張していたのかもしれないと想像したりした。それにしても、抗日戦争の資料をこれほど充実した内容で展示していることに、現在の中国指導部が、国民への教育の一環として非常に力を入れていることが窺われた。実際、中国の中学生の一団が統制された形で見学していた。中国共産党にとっては、抗日戦争は、大きな苦難であったことは間違いなく、視点を変え、当時の日本が、良くも悪くも中国に多大な影響を及ぼしていたことが理解できた気がした。



5
／
25
世界遺産
故宮博物院を見学



午後は、故宮博物院を見学。その規模の大きさに感服させられた。しかも、支配者が権力のアピールと維持のために、ありとあらゆる工夫を凝らしていた様子も見られて興味深かった。後宮の花園は、緑が多く、ようやく気持ちが癒やされる気がした。



その後、風雷京劇団の本拠の劇場を訪問した。楽屋も見せて貰い、メイク中の女優さんを見たり、各種の舞台道具を手にとって見せて貰ったりした。そして、我々一行だけを観客にして、京劇を観せて貰った。初めて、間近に京劇を観ることができて、本当に感激した。女優が、日本の歌舞伎の見得を切るような仕草をしたとき、本当に自分と視線が合ったように感じてビックリ。この劇場訪問は、風雷京劇団の団長と我が同窓会の田中副理事長が非常に懇意であることから実現したことで、田中副理事長に深く感謝。

夕食は、しゃぶしゃぶを頂いた。羊肉がおいしかった。

第4日（5／26）法政チャイナ校友会と交流

ホテルを8時に出発、北京動物園にてパンダを見学した。上野動物園では、パンダを観るのは容易ではないが、ここでは、4頭のパンダが展示されていて、ゆっくりと観察す

ることができた。パンダが、竹の枝を好んで食べている様子がおもしろかった。

その後、いったんホテルに戻り、法政チャイナ校友会との交流に備えて着替えをし、昼食会場へ。北京の家庭料理とのことだったが、この料理が一番口に合った気がして、おいしかった。

午後は、北京大学内で、田中優子総長の法政チャイナ校友会15周年記念講演を拝聴した。演題は、「江戸文化と武士の生活」で、江戸時代の武士の中には、武士として生きることを捨て、読み物を執筆したり、その他、様々な文化活動に従事したりして、社会に多大な影響を及ぼした人達が数多く居たとのだった。そのような武士の文化的活動の基礎として、中国の四書五経の学習があったそうである。

講演後は、北京大学の構内を散策した。広大な敷地内に、森や池、歴史を感じさせる建物や近代的な校舎もあったりして、とにかく広かった。



夜は、法政チャイナ校友会の創立15周年記念式典に出席。場所は、北京大学の経営するホテルの宴会場。田中総長、桑野法政大学校友会長、趙熙俊法政大学韓国校友会会長、

白智立北京大学副教授、小澤秀樹北京三田会会長、法政大学からの留学生他大勢の方々が参加しており、極めて盛大なものであった。法政チャイナ校友会の現代表の楠本路子様他の皆様の多大なご尽力の賜である。私も、法学部同窓会の事務局長をしていて、このような催しの裏方の皆様のご苦勞が身にしみて感じられた。



第5日（5／27）帰国

午前5時30分にホテルを出発し、北京空港へ。午前の便で、一路帰国。

今回の旅行では、日中平和観光株式会社の佐藤洋子様、現地ガイドの高月様、バス運転手の劉様には、ことのほかお世話になり、深く感謝します。

また、参加者14名が全員無事に旅程を終えることができたこと、いつでも、どこでもお互いに楽しく、有意義に過ごすことができたことに、深く感謝します。

以上

北京旅行に参加して

佐藤 忠篤（1960法卒）

20周年記念事業として開催されました北京旅行は、田中総長の法政チャイナ15周年特別講演会が決まり、日程が5月になりました。

私は、2002年に創立した法政チャイナの発足式に、旧校友会の組織委員会の一員として出席致しましたので、今回の15周年式典に参加出来ることが一番の目的になりました。

1991年、法学部を卒業された楠本路子さんが、設立に大変ご尽力なされました。

今回の15周年式典には、氷室利夫（85法）、曹京鉉（94法）から宇野舶来（18法）まで14名も法学部卒業生が出席されていました。

法同会15周年記念台湾旅行にも、他の学部同窓会からご参加頂き交流も出来ました。

万里の長城、京劇鑑賞など、予定通りの日程で帰国ができ、旅行は大成功でありました。



5
—
24
万里の長城
(八達嶺)で



5/24 万里の長城・八達嶺で



5/25 盧溝橋で



5/26 北京動物園・パンダ館



5/25 風雷京劇団を鑑賞



5/26 法政チャイナ校友会
創立 15 周年記念式典に出席

北京旅行にて

法政大学法学同窓会理事 小野 昭

法学部同窓会創立20周年記念で北京旅行に行ってきました。

5月23日，羽田から北京へ。1時間位遅れて到着しましたが，空港のロビーで鼻水が出て空気の悪さに閉口しました。翌朝ホテルから見た空の様子がスモッグのようでした。2日目は世界遺産の万里の長城へと行き，そこで記念写真のため全員並び，ガイドさんが法学部同窓会の横幕を出したところ，どこで見ていたのか突然男が現れ横幕を引っ込めろと言ってきました。怖い国だなと思いました。自由な日本とは大分違います。夕食は北京名物の北京ダックで美味しかったです。しかしながら，トイレ事情がよくなり女性には人気ないのが解ります。



3日目は盧溝橋，抗日戦争記念館，午後は世界遺産の故宮博物院を見学。広大な土地に，歴史があり，陳列品を見

るだけで半日はかかります。夕刻は京劇を鑑賞，独特な踊りです。

4日目は，午前中北京動物園でパンダの多さに驚き，さすが本場だなと思いました。午後から法政大学チャイナ校友会創立15周年記念の田中総長の講演を拝聴し，学生時代に戻った気分になりました。式典にも参加し有意義な1日でした。田中総長の講演の後，北京大学構内を散策し，広い



キャンパスで歩くのに疲れました。5日目は，一路帰国の途につき，羽田空港に到着し安心しました。五明理事長，齊藤事務局長お疲れ様でした。奥嶋様有難うございました。



故宮博物館に展示されていた時計



盧溝橋欄干の獅子石像

北京再訪

法学部同窓会理事 笠原 榮作

日本と中国との繋がりは、古くから続いていることは周知の事実です。それを直に体感したいと思い20年ほど前、退職を機に北京を訪れました。その時は、蘇州、上梅、西安などもめぐりました。

今回訪れた万里の長城、故宮博物院、盧溝橋、中国人民抗日戦争記念館、王府井、瑠璃チャン、北京動物園、京劇鑑賞などは再度となります。前は7月に、今回は5月の訪問ですから、時節による違いはあるかも知れませんが、総じて前回同様の賑わいでした。

しかし、王府井は道路一杯に臨時の店を出し、ごった返しの印象がありましたが、今回は整然とした街並みとなり、日本の銀座の歩行者天国を思わせるような様子でした（路地に入ると別）。



瑠璃チャン は、書画骨董の街ですから静かで、落ち着いていて良いと思いますが、路上駐車などが増え雑然としていたように思いますし、やや寂しさを感じました。

京劇は、前回の大舞台とは違い演者の表情、息遣いまで伝わってくる風雷京劇団の会場で私たちだけのために演じられたので、より一層インパクトがあったように思いました。



その他、トイレ事情の変化は助かりました。有料でいつも小銭を用意して列を作る心配がなくなったからです。水洗式もかなり普及していました。

また、自転車の数が減ったこと、交通マナーに不安を感じることはなくなったこと、電動バイクの普及に感心したが、狭い道路では後方からの接近に気づかずクラクションが頻繁に響き、少々気になったこと、作業中の道路清掃車

も目に留まり道路の美化にも努めている様子、空気清浄化は道半ばで、マスクの使用者もときどき見られることなどにも気づきました。

前回にはなかった大きな収穫は、法政チャイナ校友会創立15 立周年記念式典に参加できたことと、歴史的建造物も活かしつつ現代建築 が建ち並ぶ北京大学の壮大なキャンパスを訪れ、そこで、田中法政大学総長の記念講演「江戸文化と武士の生活」を聴講できたこと、なお、日中平和友好条約締結40周年の交流の一端に加わることができたことです。

このたびの 法学部同窓会20 周年記念 北京の世界遺産、文化、交流の皆さまとの5日間の旅、生涯忘れがたいものとなりました。

ありがとうございました。

北京旅行に参加して

法学部同窓会 終身会員 奥嶋 義明

喜寿の記念にと、法政大学法学部同窓会20周年記念として企画された、広大な中国の首都、北京旅行に期待を持って参加した。

まず、面積の広さと歴史の長さで感じるのは、万里の長城である。見学したのはほんの一部だが、この構築物が他民族から



の侵略を防ぐ為に永い年月と労力をかけて長距離に亘り築かれていることを想うと、まさに“万里の長城”である。

次に、故宮…歴代24人の皇帝の王宮として600年前に建



故宮博物院で

築された紫禁城の広いこと、そして北京大学構内の広さにも驚かされた。大学生の講義用には今は使われていないようだが、構内には十三重の塔など歴史ある建物

がアチコチに残されていて、悠久の誇りを待っているように感じる。

約200年の歴史を待つ中国の代表的な古典劇…京劇を鑑賞した。田中日中友好協会会長の紹介により、風雷京劇団を訪問し、舞台裏や衣裳・小道具、化粧中の姿を目の当たりに見られ、さらに我々一行の為にホール貸切で、演者の目力に圧倒されながら観劇させて頂いたことは目に焼きついて残っている。



田中優子総長の講演は、専門の“江戸文化と武士の生活”と題して据り下げた内容で講義された。法政大学チャイナ校友会創立15周年記念・特別企画として、スライドと通訳を入れて1時間半余りに亘って行われた。久し振りに学生時代に遡って授業を受けているようであった。

引き続いての15周年記念式典も盛大に開催された。出席者は、田中総長、桑野校友会長、我々法学部同窓会一行と地元北京・香港・上海・天津や韓国及び東京六大学の代表者など80名に及んだ。これからも、この友好関係が永続していくことを期待したい。

悠久の国も近代化が進んでいるが、まだアンバランスな面も見受けられる。車が多いことによる排気ガスの処理が十分でないし、歩行者より車優先の感じ。電動二輪車も多く、視界に入らない方角から近づいてくると危うく衝突しそうになる。歩車分離も充分ではない。自転車（レンタサイクル）が多く、手軽な移動手段として利用されているようだ。北京大学構内にも数か所プールされていて、広い構内ではその必要性を再認識した。

大気について予備知識を持っていた通り、汚染は相当厳しいものがある。早朝、ホテルの部屋から外を見ると、遠景が霞んで見える。4日目頃になって喉の調子がおかしくなってきた。帰国してからも改善されず、やむを得ず医者にかかった。“中国旅行の時は、期待（キタイ）を待つと同時に大気（タイキ）にも気をつけてネ”とチュウコク（中国）された。

喜寿の旅行は駆け足ではあったが、思い出多いものになった。

北京旅行～道中日記

高橋 敏男（建72卒）

法学部同窓会の皆様、こんにちは。私は本年5月23日から27日にかけて、企画されました法学部同窓会創立20周年記念北京旅行に参加させて頂きました。法政大学同窓生であります但理系同窓会の所属です。その私が参加できたのは、学部同窓会協議会の場に何度か出席したことがあり、そこで法学部同窓会創立20周年記念の北京旅行が企画されていることを知り、また法政チャイナ校友会創立15周年記念の田中優子総長の講演会と記念式典に合わせ旅行とすることを知ったことに始まります。

そこで3年前には山東省曲阜の旅に参加したことはあったのですが、北京には行ったことがありませんでしたので参加出来るものならば参加したいと法学部同窓会会員で、且つ日中平和友好協会の田中義教先輩にお願いしたところ、是非参加してくださいと快諾を頂いたことで北京旅行への参加が実現したのです。

この北京旅行に参加して良かったことを先ず、お伝えし感謝申し上げる次第ですが、では、それは何が良かったのでしょうか、そう感じる根拠を探してみたいと思います。それは初めに出発空港が羽田空港であったことです。しかも出発時刻がほぼ1時間遅れたことが幸いました。添乗員の佐藤さんが参加者に対し旅行中の注意事項などを懇切丁寧に説明して下さいました。これが参加者の結束を強め

る好い機会になったと思うのです。

5月23日（水）

いよいよテイクオフの時間になりました。チャイナ機NH963が飛び立ち2時間ほどで北京空港に到着しました。北京空港が広いことに驚きました。また70才以下の外国籍の方には、左手、右手、両手、そして顔認証を義務付けられました。勿論、私も対象者の一人ですから、これを総て受けてから入国しました。しかし70才を超える方は何故、顔認証と両手だけで入国できるのか、その差は一体何なのでしょう？



夜遅く到着した北京空港



法政チャイナ校友会の楠本路子さん

空港に着くと法政チャイナ校友会代表の楠本路子さんが迎えに来て下さいました。そしてバスに同乗しホテルまで一緒にくれました。車内では法学部同窓会の皆様が法政チャイナ15周年記念式典に出席してくれることを歓迎し感謝しているとお喜びのメッセージを頂きました。また日本語の上手なガイドの高さんが紹介され、旅行中は彼女に案内をしてもらうことになりました。ホテルに着いたのは既に深夜です。参加者一同指定された部屋に入り、暫し寛いだことだと思います。私は相部屋でしたが、神戸から参加された法学部出身の大先輩の佐藤忠篤氏であり、誠に親切な先輩でしたので気疲れせず、旅行中は楽しく過ごすことができました。

翌朝はモーニングコールになる前に目覚めていました。7時出発ですから遅れないように気になっていたのでしょうか。各自朝食を摂り、9時に出発しました。今日は楽しみにしていた“万里の長城”見学です。世界遺産“万里の長城”(八達嶺)までは北京市中心街から割と空いている日でしたが高速道路を走り、1時間30分もかかりました。市内から山並みが見える頃には群馬県か栃木県に入ったのかと錯覚を覚えました。そこ此処に見える建物や看板文字が日本ではないよと教えてくれました。

なお“万里の長城”近くまで私達は専用バスで行きましたが、電車で行くこともできます。50人乗りに僅か15人(ガイドを



バスから見た風景

含めて16人) ですから、ゆったりとして寛ぐことが出来ました。長城の麓に到着するとガイドの高さんの説明で男坂と女坂があることを知りました。



八達嶺 万里の長城

参加者は殆んど年配者ですから、勿論、女坂を登ります。その中で健脚の高田さんが男坂を選びましたので、私は高田さんに万が一のことがあってはならないと後を追いました。さらに往復1時間の持ち時間で集合場所に戻る条件を指示されていたので結構急いで登ったのです。

しかし、炎天下に晒された“万里の長城”は石畳と石の急傾斜の階段で作られており、運動不足の身体には本当にしんどいことです。第一の楼、第二の楼、更に一番高い第五の楼まで着いた時には、既に35分が過ぎてしまいました。5分ほど休み、戻ろうとしたのですが、なんと高田さんが進んでいく方向は反対方向です。高田さんにそちらは違いますと声をかけても勘違いしていることに気づかず歩いて行きます。仕方なく急ぎ足で高田さんに追いつき戻るのがあまり残されていませんよと伝えて、来た道に戻ることにしたのです。

このように間違った方向に行ってしまうと往復の時間が

かかってしまいますし気持ちも萎えるものです。そのため集合場所に戻った時には、もしやと心配されていたのでしょう、迎えが来ているほどでした。時計を見た処、3分ほど遅れて何とか戻れたのです。ということは僅かに15分位で戻ったことになります。殆ど倒れるのではないかとハーハーと荒い呼吸をしながら急いで戻ったからでした。

ところでこのような名所には付きものなののでしょうか？特に888メートル地点には、ネズミ取りではありませんが登頂記念のメダルに日付と名前を刻み、それを売る男が待ち構えていました。180元だと宣伝していましたが、物を見ると3分の1の60元がいいところだと思います。

取り敢えず値切って記念の印に一つ購入しました。このように炎天下の八達嶺の見学を終えた後は、北京市郊外の大宅門という店で昼食を摂りましたが、勿論、中華料理でジャージャー麺という、日本のうどんのようなもので、これは本当に食べやすく旨かったです。



その後は王府井（ワンフーチン）という日本では銀座でしょうか、広い道路の両側に大きな店構えで建っています。私達日本人ばかりではありません。中国は日本の10倍の人口があります。その地方から北京に来る人たちが大勢買い物或いはウィンドウショッピングを楽しんでいました。勿論、写真館の建物には

毛沢東、周恩来などの写真が飾られているのが印象的でした。そしてガイドさんから聞いた北京は日本の四国に匹敵する面積



を有するということでしたが、街中の車の数、自転車で走る人数からも規模の大きさを実感いたしました。

それから瑠璃チャンという硯、毛筆など書道用品販売の有名店が並んでいるところを見学、それを終えると夕食は彼の有名な北京ダックです。全聚徳和平門店で頂きました。米国大統領、日本の首相も利用した名店だとのこと。それに相応しく、また人気があるのでしょうか大変に賑わっていました。食べ放題のように後から後からダックが出てきます。既に満腹、テーブルの上には有り余る料理が残りましたが、中国の食習慣では残しても良いそうなので安心しました。

この先にある建物の拡大写真が16頁にあります。



翌3日目は8時出発となりました。バスで40分ほどで日中戦争勃発の地となった盧溝橋に着きました。この盧溝橋の中央には、当時からの敷石が残っており、摩耗して丸みを帯びていました。降雨に歩くと滑りそうなくらいに擦

り減っています。手摺の欄干には何れも顔の異なった獅子が座っていました。この獅子が当時の真実を知っているに違いありません。

しかし黙して語りません。人間のように欲は有りませんが、口が利けないのが悩みだと想像します。遠くに新幹線が見えました。日本の新幹線よりも速度は出るそうです。案の定、見ている間もなく姿は消えました。

その後、中国人民抗日戦争記念館を見学したのですが、館内を見学する学生が多いのには驚きました。

これらの見学が教育の一環として行われているにしても何故か愛国心をそそり、国威発揚のためにと洗脳しているのではないかと心配になったものです。歴史の真実は何処にあるのか？ 誰が歴史を作るのか、書き換えるのかを知られば自ずと真実は見えてくるはずなのですが、何処の国でも権力者による洗脳だけは止めて頂きたいものです。





5/25 中国人民抗日战争纪念馆内の資料を見る

次の見学地は故宮です。東華門から入城しました。広大な敷地の中に大きな伽藍建築が鎮座しています。首都北京、創建当時は大都と言われていたそうで私には縁を感じる名前でした。この広大な敷地にも拘わらず、樹木は殆んどありません。当時の権力者の考えが反映している城塞でもあります。炎天下で汗を拭きふきの見学でしたが規模の大きさには圧倒されました。故宮には時計博物館もありました。鐘表館です。そこを見学しましたが、水時計もあり、日時計もあり、歴史の流れを感じる場面でした。



そして夕方には風雷京劇団の見学となりました。市街地の一画にあり、通りは何処に行くのかと思うほど古い街中にありました。なお此处では京劇団代表者と昵懇の田中義教副団長が再会を喜ぶ姿が印象に残りました。その縁で舞

台裏まで見せて頂きました。勿論、霸王別姫と孫悟空の舞も素晴らしかったです。ただ一つ中国語が分からないところが残念なところです。京劇を楽しみながら、バナナ、ライチ、ティーもご馳走になりました。生演奏も素晴らしかったです。



そして夕食は、東來順前門店のテーブルを囲み、しゃぶしゃぶを頂きました。ホテルへ帰る途中で天安門広場前を通りましたが、夜の天安門は写真で見る通りでした。今日は疲れが出てくる頃だったのでしょうか。ぐっすりと寝入ってしまいました。さらに咽喉がヒリヒリ、鼻水が出るようになってしまいました。北京は空気が悪いとは聞いていましたが、本当にPM2.5という代物に犯されたのでしょうか？ 免疫反応が出ているように感じました。明日のメインイベントに差し支えると困るのですが仕方がないことです。





心配した通りの体調になってしまいました。4日目は6時30分のモーニングコールです。朝食を済ませると8時に出発しました。ホテルから近い場所に北京動物園がありました。そこでパンダの見学です。パンダは午前中活動し午後は休んでいるといいますが、朝のうちに見学しましたのでパンダの朝食する姿が見られました。上野動物園では見学者が多すぎて見る事すら難しい中、本場中国で見られたのは幸いでした。



本日の昼食は早めに摂りました。勿論、中華料理、北京料理です。毎食中華料理ですが食べ易かったため全く飽きることはありませんでした。早めの昼食を終えて、北京大

学構内にある博雅国際酒店に到着、12時30分に講演会場の北京大学政府管理学院3階の会場に入場して、田中優子総長の講演を待ちました。田中総長の「江戸文化と武士の生活」と題した講演では、今までにない日本の特徴をアピールする機会となったことと思います。北京大学の学生などが聴講していましたが、皆真剣にメモを取りながら聴講していたのが印象的です。



それにしても私の咽喉に異変が起きてしまい鼻水が止まらず、何とか講演会を凌いだもののすっかり体調を崩してしまいました。そのため講演会後のひと時の北京大学構内見学には参加出来ませんでした。一人、校内のレストランでジュースを飲み、休んでいるところに添乗員の佐藤さん

とガイドの高さんが心配して探しに来てくれました。何故探しに来てくれたのかと訊ねると、予定の校内見学に姿がなかったし、誰にも不参加の連絡がなかったので探し歩いたとのこと。私は咽喉がやられて、鼻水が出て苦しい状況ですから、休みましたと告げると、なんと佐藤さんが咽喉に着ける薬をどうぞと提供してくれました。

それを噴霧して暫く様子を見ましたが、拗らせた症状は直ぐには治りません。覚悟していましたが症状が治るまでには、帰国後10日ほどかかりました。病院に行って診てもらったところ、別段、肺に異常は有りません、ということで咳込んだ時に白い痰を吐き出し、それに耐えるだけの日々でした。

ところで添乗員の佐藤さんとガイドの高さんと名刺を交わした折に、佐藤さんはどちらの出身ですかと訊ねると、なんと私の住む上尾市の隣の桶川市に実家があるということです。続いて地区名を訊き、小学校は何処ですかと訊ねると本当に隣りも隣り、直ぐ近くでした。咽喉の異常がなければ、このような旅先で訊くこともなかったことです。また友人から頂いた中国に行くならこの本を持っていきなさい、読んでから行きなさいと渡された久保さんの本をお見せした処、この久保さんはよく知った方ですと仰いました。このようにひょんなことで意外な関係が分かるものですね、驚きました。

この北京旅行のメインイベントである法政チャイナ校友会創立15周年記念式典は午後5時30分から開催されま

したが、台湾校友会、韓国校友会並びに早稲田、慶応、明治、立教、東京それぞれの大学の現地校友会の方々がお祝いに駆けつけてくれて、法政チャイナ校友会代表の楠本路子さんの御苦勞も報われたのではないのでしょうか。お蔭様で厳かな式典そして賑やかなで楽しく語り合う式典に立ち会い本当に満足した一日を味わうことができました。



そして翌日、早朝に北京空港に到着しました。途中の車中から北京オリンピックメイン会場の“鳥の巣”が見えました。出国手続きを終えて一路、東京へ。この間の法学部同窓会の皆様との交流は、気さくに気楽に和気藹々と駄洒落交じりで大変に愉快、軽快、半分落語の世界でした。また弁護士で事務局長のカクエイさんも度々姿を現し、咽喉を嚥らして苦しそうでしたが演説をぶち、参加者の皆さん

のご期待に応えているのが楽しい思い出になりました。

また、いつでも明るく、みんなに気を配る団長の五明さんの野球で鍛えた躯体から出るのはストレートに変化球、終始皆さんの顔を綻ばせていました。旅を常にリードしてくれた法学部同窓会長の金子先生、五明理事長、田中副理事長のエネルギーな行動力には敬服いたします。

またご一緒させて頂いた佐藤理事、小野理事、石橋理事、奥野様、高田様、齊藤事務局長、笠原理事、榎本様の本当に個性豊かな皆様には感謝が絶えません。そして紅二点の相原様、円城寺様には時々笑顔の中にも甲高い声を聴く楽しみもありました。

このような楽しい旅となりましたのは、校歌に謳う
“よき師　よき友　つどい結べり”　という法政大学が社会に誇る精神が心にも身体にも染みこんでいる同窓生ならではのことではないかと感じます。このような企画が今後も続くことを望んでおります。最後になりますが、皆様のご健勝と併せて法学部同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げ、御礼の言葉に代えさせていただきます。この度（旅）は本当にありがとうございました。

平成 30 年 8 月 23 日
高橋敏男（建 72 卒）

北京は熱かった

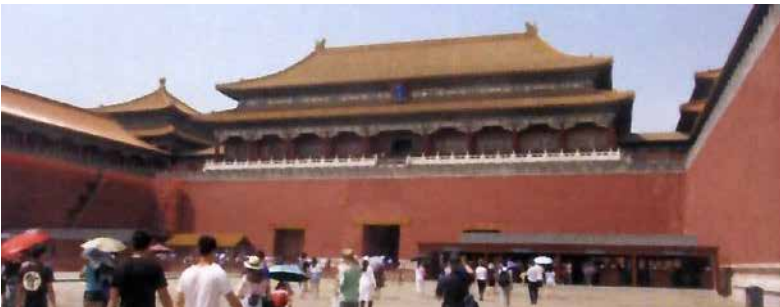
昭和40年法学部法律学科3年中退

高 田 眞 一

法学部同窓会20周年記念北京旅行会に参加させていただきました。
きありがとうございました。

中国の動向が日本のみならず世界の平和と経済に大きな影響を与える今日、その首都・北京を一度訪ねたいと思っていました。

北京は秋田と同じぐらいの緯度だから、東京よりは涼しいかなーと思っていましたが、東京以上の蒸し暑さに参りました。その暑さの中、故宮、長城などの世界遺産に圧倒されながらよく歩いた旅でした。



「抗日戦争記念館」を訪ねた際、授業で集団参観していた中学生は、私が日本人と知っても嫌な顔することなく笑顔で対応してくれたことには、感激しました。

「中国の愛国教育が反日感情を生み出す」と言われていますが、侵略し、虐殺、人体実験などなど凄まじい蛮行を繰り広げた日本人は、戦争体験というと被害体験が多く語られがちですが、一度は此処に足を運び加害の実態を直視し、絶対に過ちは繰り返さないと誓うべきと思いました。



以前、中国の東北地方を旅した時は連日の中華料理に食傷気味でしたが、この旅では実によく食べ、よく飲みました。「北京の田舎料理」と紹介され、次々と山盛りの料理

が運ばれてきましたが、素材が生かされ、特に野菜料理が美味しく思わず箸を持つ手が伸びてしまいました。

片側5・6車線もの通りを埋め尽くす車、その間を走り回る電動のバイクや自転車、三輪車の群。東京のビル10棟を束ねたような巨大なビル群。広い！大きい！そして凄まじい活気。そして街に活気があるのは若者が多いことでした。地下鉄に乗り私が通路に立つと、座っていた若者が直ぐに立ち上がり席を譲ってくれます。これには驚きでした。5兆円を超える軍事費を減らしその1兆円を中国や朝鮮半島の若者との交流事業に向けた方が、日本の安全と平和に貢献すると思いました。

この国から多くを学び取り入れ発展させてきた日本。今一度謙虚にこの国の歴史と文化、そして人々の思いを理解し、この国と仲良く共存共栄の道を歩むことなくしては日本の平和と発展はないことを改めて痛感させられた旅でした。

北京は熱かったです。

北京訪問の旅を振り返って

円城寺 孝子

この5月、20年振りに訪れた北京は、豊かな木々の緑に彩られた美しい街でした。街を行き交う人々はスピードを競う一方でゆっくり時を過ごす人々も居て、古いもの、新しいものが混在する活気あふれる街でした。この街で味わったさまざまな楽しかった出来事は今も時折蘇り、独りで笑顔がこぼれます。

北京への出発日、羽田空港に辿り着き、旅馴れないせいもあってウロウロし、見知らない人達との集合場所を探しながら、それらしい男性のグループを見つけて近付きました。傍ら近くに添乗員の佐藤さんの姿を見てほんとにほっとしました。ですが、他の方は初めてお目にかかる男の方達ばかりで心許ない限りでした。それでも五明団長をはじめとして怖い男性は一人も居ないようで一安心でした。

そこに加わった相原さんも初対面でしたが、部外者の私たち二人を皆さんが快く受け入れてくださったおかげで、法政大学法学部20周年記念の旅の一員として幸先の良い旅立ちとなりました。

夜遅く到着したホテルは思っていた以上に立派で、部屋には必要なものはすべて整えられて快適そのものでした。与えられたこの私の城で四泊することになり、清潔で寝心地のいいベッドに寝転び思いきり手足を伸ばして飛行機での疲れを取り、明日の日程を確認し、朝食を楽しみにして

心地良い眠りに入ることができました。

二日目からの観光の第一番は万里の長城でした。なんといっても人工衛星が捉えることのできる人類最大の構造物といわれる万里の長城です。ほんの一部を見渡したただけで世界遺産に登録されるのも尤もなことと納得させられました。



この長城の一隅に足を一步踏み入れ、次の一步を踏み出し、地球の重力に逆らい、わずかずつ地歩をかためて登りながら後を振り返ると、眼下の景色が少しずつ後退してきました。途中でもっと若い頃に登りたかったと埒もないことを考えたりしましたが“今がその時”と思い直し、古代からの歴史をもち空間的にもとてつもなく広大なこの長城に、自分の足で登れたことは素晴らしいことでとてもうれしいことでした。

ただ後になって思い起こしてみると、少しだけ頑張れば

皆さんと一緒にこの先までいったのに、また、違う景色を見られたかも知れないのと思い、途中で諦めたことに悔いが残りました。やればできるのに限界を作ってはいけないとつくづく感じたことでした。



京劇鑑賞は又と得難い経験でした。大好きな京劇を、しかも梅蘭芳ゆかりの“霸王別姫”を間近で観せて頂きました。なんという幸運でしょう。

虞姫を演じた女優さんがすぐ目の前で唱い舞ってくれました。舞いに合せた唱か、唱に合わせる舞かわかりませんが、虞姫の唱としなやかな体の動きに目を奪われ見惚れてしまいました。

その中で特に、せりふを口にしながら動くときの軽やかな足先の動きに惹きつけられました。この足先の動きには何か意味があるのか、或いは優美に動くための一つの方法なのか知りたいところです。その時の体の動きのなかで一貫して腰の高さが変わらないことと相俟って、いかに鍛え抜かれているか、そしてそれを感じさせない力量を持って

いるか窺わせるものでした。

普通の劇場での公演では、役者さんの足先の動きなど気付きようありません。すぐ目の前で観せていただいた風雷劇場ならではのことでした。

この度の北京訪問で、このような贅沢を味わうことになるとは思ってもみないことでした。普通の観光旅行では決して経験できない格別な出来事でした。感謝です。

旅行の思い出のよすがになる写真がいかに貴重であるかと気付かされました。楽しさ懐かしさを長続きさせてくれます。中国の女性にお願いして一緒に撮った三枚の写真があります。もう彼女たちに会うすべがないために一層大切な写真になりました。

万里の長城で休憩したとき、隣り合わせて地べたに並んで座り両足を伸ばして撮った写真。王府井の散策の時、ベンチに座ってふたりで笑みを交わしながら撮った写真、故宮を出たところに設えてあった腰掛けに座っていた女性が体をずらして私の席を作ってくれたので二人で互いに背中に手を回して身を寄せ合って撮った写真。この三人の女性とは言葉は交わせなかったけれど何か通い合うものがあったて気持ちがやわらぎました。これらの写真を彼女たちに届けられれば、私と同様に彼女たちにとっても大切な思い出の写真になったに違いないと思って、彼女たちに写真を送る手立てを思い付かないことが悔やまれています。佐藤さんに仲立ちをお願いすれば可能だったかも知れないので尚更です。

心ゆくまで観光を楽しんだ旅程の最終日に、法政チャイナ校友会創立15周年を記念して行われた田中優子法政大学総長による「江戸文化と武士の生活」と題した講演を聴講しました。北京大生の他に講演会に応募された一般の方々にとってもめったに聴く機会のない江戸文化のお話は、とても新鮮に受け取られたことと思います。又、講演資料を配っていただいたことは大変ありがたいことでした。しかも日漢併記で、その心配りに感謝です。

講演会のあとの記念式典には金子征史法学部同窓会会長を筆頭にゆかりのない私までも法政大学法学部旅行団の一員として招かれ全員参加させていただきました。

知名度も人気も抜群でそのうえ笑みを絶やさない田中総長を中心に終始和気藹々とした雰囲気の中で、見知らない方もみなさんがとても親切でよそ者であることを意識する間もなく楽しい時間を過ごすことができました。



背筋を伸ばし拳を突き上げて応援歌を歌う姿はゾクゾクとさせるものがあり、愛校心による結束ぶりをまのあたり

にして圧倒されました。

田中総長は別のところで、日中の政府同士の関係が多少悪くても民間の交流を絶やさないこと、人の往き来が深まることの大切さ、更に、日本の歴史が中国に深く関係があることを日本人はもっと知って中国に行って学んで観光することが広がるように、人々の交流があらゆる段階で進んでいくことを望んでいる。一人一人が相手国のことをよく知り友人になり民間の交流が必要で大事なことですと述べていられました。これからの中国との関わりについて示唆に富んだ共感できる内容でした。

講演会場の北京大学は湖まで抱えた広大な敷地にあって、キャンパスの広さに驚かされました。創立15周年記念活動報告書によりますと、北京大学の所在地は、北京市海澱頤和園路5号と記されていて、それにも驚かされました。私たちが連れ立って散策し、記念写真を撮った北京大学の庭園は激動の渦中にあったかつての頤和園の一部だったのでしょいか。

この法学部同窓会20周年記念の旅を振り返ってみて、その内容の多様さに驚くばかりです。再び経験できないことの連続でした。創立15周年記念活動報告書を開いてみる度に心躍るものがあって、この場に自分も居させていただいたことに感謝の気持ちが湧きます。この旅で法政大学の存在を改めて認識することができました。仲間に入れて頂いたこと、親切に接して下さったことに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。 円城寺孝子

法政大学校歌

作詞 横山春文
作曲 近藤勇彦

若きわれらが命のわがやう

こころをこめておぼえておくれ
見ゆるがすれど世に二つの春

ほたるの光も門の光も
そと師よと友よはいつまでも

法政 おお！ わが母校

法政 おお！ わが母校

若きわれらが命のわがやう

こころをこめておぼえておくれ
見ゆるがすれど世に二つの春

ほたるの光も門の光も
そと師よと友よはいつまでも

法政 おお！ わが母校

法政 おお！ わが母校

大内兵衛書



編集後記

法学部同窓会 20 周年記念行事の一環として企画された北京旅行の旅行記ができました。中国の世界遺産見学、創立 15 周年を迎えた法政チャイナ校友会の記念式典参加など、有意義な交流ができたことが報告されています。

外国にある校友会との交流、同窓会会員の増加を含め、同窓会活動が継続されることを願いつつ、この旅行記を編集しました。

提供していただいた写真は、それぞれ旅行記の関連箇所に挿入してみました。同じ写真が複数箇所に挿入されていたり説明文がない箇所もありますが、ご了承ください。

(編集：広報委員・小野瀬敬二)

法学部同窓会 20 周年記念企画 北京の世界遺産 文化 交流の旅

作成日 2018 年 12 月 1 日
作成者 法政大学法学部同窓会
事務局 〒104-0061
東京都中央区銀座 7 丁目 15 番 5 号
共同ビル 401 号室
電話 03(3543)1344
FAX 03(3546)2608
URL <http://hosei-hodokai.jp/>

